

## 6. 兵庫県電子自治体推進協議会のあり方検討会 (自治体DXの推進体制の再構築)

### < R6の取組 >

- 第2回ひょうご地域DX推進検討会での意見交換を踏まえ、別途検討会を設置。県・市町連携事業の推進母体である「兵庫県電子自治体推進協議会」の今後の体制・連携事業のあり方を議論し、以下のとおり基本方針を定めた。

#### 【協議会の体制・連携事業の方向性】

現行の情報部門のプラットフォームとしての役割を基本に、事務局の余力の捻出、事業の重点化を前提として、**実践的な知見の共有（知識の横展開）とコスト低減を重視した県・市町連携事業の量的充実**を図り、自治体DXの推進にかかる課題に対応していく。

### < R7取組案 >

- 実践への踏込みやコスト低減を評価軸に、事業推進を図っていく。

#### (1) 県・市町連携事業の量的充実（主なもの。ニーズや効果を踏まえて選択実施。）

#	取組事項	取組方針
①	相談窓口の設置	協議会事業としては見送り。適宜、各市町において、国・県事業を活用。
②	人材の育成支援	【機運醸成】DX推進に係るトップ層の組織変革へのコミットメント、職員のDXの自分事化を促進 【研修充実】R6実施の協議会研修のメニュー追加等の取組を継続。情報部門の人材育成・技術継承も大切。情報部門に対する庁内理解を得ていくためにも、人材育成計画の策定を支援。
③	人材の確保支援	・ 国支援策の上手な活用について、実践的な知見の共有（知識の横展開） ・ 県事業として、実務者派遣に前向きな市町を中心に検討会の開催や研究を継続
④	共同利用、共同調達	・ （システムの共同利用・ライセンス等の共同調達も視野に）市町の主体のもと研究会（検討会）を開催 ・ 既導入システム、ツールの有効活用に係る研究会の開催

#### (2) 事務局の余力の捻出

#	取組方針
①	サービス利用契約の更改時期を捉え、部会（特別会計）の廃止を検討 部会を廃止しても、共同調達は継続させるため、協議会に「共同調達に係る業者選定を行う新組織」の創設を検討

## 7. システム標準化に係る市町支援

### < R6実績 >

- 県がIT事業者と共同で、①市町の進捗や課題等をヒアリング調査し、②相談窓口の設置や意見交換会の開催、③ガバクラ接続やクラウド利用料の低減等に係る技術支援を実施した。
- 意見交換会は、市町をグループ分けし、課題解決に向けた取組等を共有し易いよう工夫して実施した。
- また、ガバクラ利用が要件とされるため、ガバクラ接続の手続等を技術面で支援するとともに、ガバクラ利用料の低減に向けた研修の開催やシステム構成図の確認の勘所について助言等を実施した。

### < 課題 >

- 移行手順、試験計画、切り戻し条件等の検討 ● データ連携の調整 文字同定や過渡期連携、既存システムの延命等の対応
- 移行後の運用管理業務等も含めたコスト最適化 ● クラウドセキュリティ対策 ● 特定移行支援システムのベンダ再検討



### < R7取組案 >

- 法令に定める移行期限（実装フェーズ）のため、以下のとおり取り組みの充実を図る。
- (1) 意見交換会（グループ支援）**
    - ・ 進捗状況の確認と併せて実施することにより、早期開始と通年の支援を行う。  
【予定】3回程度（R7.6（年度当初：追加開催）、R7.10（予算要求時期）、R8.2（次年度に向けて））
    - ・ テーマは、データ連携の調整方法、文字の縮退に対する市民対応等、市町が共通で抱えている課題にフォーカスする。
    - ・ 既に標準準拠システムへの移行が一部完了している団体との意見交換も実施する。
  - (2) 個別相談（スポット相談、伴走支援）**
    - ・ 相談を受けた市町に対し経過確認を含めて伴走支援を実施する。
    - ・ 進捗が芳しくない市町には「プッシュ型」で相談に対応する。
  - (3) ベンダ交渉の円滑化支援**
    - ・ 希望市町からAWS Pricing Calculatorの提供を受け、助言等を実施。精査事例は県内市町で情報共有する。
    - ・ クラウド操作・技術、DR・冗長構成、セキュリティ対策等に関する研修を実施する。

## 8. 共同運営システムの刷新等

### (1) 共同運営システムの刷新

#### < R6実績 >

- e-ひょうご（電子申請）について、スマホや電子決済対応など、UI/UXの改善等に配慮して調達を実施した。
- 県と連携し、新システムに初期参加する団体の負担軽減のため、利用料の定額・低減を行った。

#### < 課題 >

- 参加団体が少ない。また「ぴったりサービス」等について使いにくい等の声がある（R7.2実施の協議会アンケート結果による）

#### < R7取組案 >

- 利用料の定額・低減の利点を活かし、新システムを利用した行政手続のオンライン化及び庁内の業務改善を推進する。
  - ▶ オンライン化が低調な市町、水道企業団等への積極PR
  - ▶ イメージや共感を高めるため、e-ひょうごのロゴを刷新

#### < 更に進めて >

- 市町の主体のもと、共同利用・共同調達に係る研究会（検討会）を開催する【県相乗り型と市町ニーズ検討型】
  - ▶ 【テーマ選定の視点】・便利さの共感・コストの低減
- 熟度が高まった市町で方針・工程表を策定。必要に応じ各市町でR8予算要求を行う（県で実施すべきものは県で要求）

### (2) 研修サービスの共同調達

#### < R6実績 >

- 有償の「オンライン研修サービス」について、利用希望団体の共同調達（ボリュームディスカウントによる特別単価の適用）を実施した。また、契約最小ライセンス数未満の市町については、協議会で束ね、一括契約を実施した。

#### < 課題 >

- 期間限定、試行利用の市町も多く、利用促進や評価方法の確立等に取り組む必要がある。

#### < R7取組案 >

- 共同調達を継続する。
- 研修コースの設定等の情報共有、完走率の向上や研修効果の評価方法等の共同研究を行う。

#### < 更に進めて >

- 既導入システム、ツールの有効活用に係る研究会の開催する。 ▶ 【テーマ選定の視点】活用に係るノウハウの共有・横展開

## 9. デジタル人材の育成支援

### (1) 市町職員DX関連研修の充実

#### < R6実績 >

- 県事業と連携し、R6.10から協議会研修の充実（研修体系及び実施方法を見直し）を行った。  
【内容】▶ 研修体系の整理（J-LIS研修を補完）▶ 県事業と連携した学びのサイクル支援を実施  
▶ ベーシックな動画研修サービスの試験導入 ▶ ブレンディッド研修の試行（動画と集合研修の併用）

#### < 課題 >

- 各団体の人材育成の状況に応じた支援の実施 ● 各団体の研修計画等への組み込み、活用の促進

#### < R7取組案 >

- アラカルト方式の研修を実施するとともに、年度当初に研修内容、年間スケジュール等を通知する。

#	取組事項	内容（主なもの。ニーズや効果を踏まえて選択実施。）
1	協議会研修（情報化推進研修）の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>● R8年度からの本格運用を目指し、以下の取り組みを実施する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 動画研修サービスの試行を本格化。1年を幾つかのクールに区分して、資格対策やDX実践講座等研修コースを設定することにより、効果を検証する。</li> <li>▶ 動画で知識を習得し集合研修で定着させるブレンディッド研修の効果を検証する。</li> </ul> </li> </ul>
2	グループ意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県内市町のデジタル人材の育成の現状等を共有。グループでの意見交換により、市町の人材ネットワークづくりと課題解決に向けた糸口を探る。</li> </ul>
3	人材育成計画策定研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>● DX推進の機運が低い市町を対象に、限定した範囲（例：情報部門が所属する部）で人材育成方針・研修計画の策定を試行。研修手法の研究、庁内職員の共感を広げ、全庁的な計画策定に向けた機運を高める。</li> </ul>
4	県・協議会事業の連携による「学びのサイクル」の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県・協議会事業を効果的に組合せて、研修効果を高めていく。</li> <li>● 協議会研修により【知る】【やってみる】を拡充し、kintone勉強会や県事業の出前講座等を通じた【教え合い】により、実践的な学びにつなげていく。</li> </ul>
5	ひょうご人材育成ポータルサイトの利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協議会、県、市町が過去に実施した研修動画・テキスト等を集約・提供するポータルサイトの利用を促進する。</li> </ul>



## 9. デジタル人材の育成支援

### (2) 地域DX出前講座の実施

#### < R6実績 >

- 「地域DX基礎」「カイゼンDX」「データ利活用」「地域社会DX」の4講座を開設し、学びのサイクル支援の一環として実施した。
- kintoneの操作等研修の実施希望が多かったため、「kintone講座（研修）」を別途実施した。
- 当初開設予定であった「トップマネジメント」については、県自治研修所の特別研修おと連携し実施した。

#### < 課題 >

- 本格実施が12月からとなったため日程調整等がうまくいかず、市町の研修計画等への組み込みも難しかった。

#### < R7取組案 >

- 協議会研修等と連携し、各団体が状況に応じ支援を選べるよう、アラカルト方式の研修に協力する。
- 年度当初に研修内容、年間スケジュール等を通知し、各団体の研修計画等への組み込み、活用を促進する。

### (3) 市町DX推進リーダーの育成

#### < R6実績 >

- 県が受入れる市町研修生に対する研修の中で市町におけるDX推進リーダーの育成支援を行った。
  - ① 市町振興課で受入れる研修生に対する1週間程度の実践的研修（生成AI、kintone等）を実施した。
  - ② ①の一部をデジタル改革課で受け入れ、「DX推進リーダー育成プログラム」として半年の実務研修を実施した。

#### 【DX推進リーダー育成プログラム】

- ▶ データ、デジタルツールの操作・活用に関する知識、それらを支えるクラウドサービス、情報セキュリティの仕組み等を学ぶ研修を実施し、DX推進リーダーに必要な基礎的な素養を習得した。
- ▶ デジタル改革課の業務従事を通して習得した知識等の実践を行った。
  - ・ 県庁内業務改善の相談対応に同席。Kintone アプリ開発や関係者調整のノウハウ等を習得した。
  - ・ 生成AIの技術習得とハッカソンへの参加、最新技術を自ら主体的に学ぶマインドを醸成した。
  - ・ 市町DX支援の窓口を務め、市町と「顔の見える関係」を構築。また、県の民間採用人材や関係部署への橋渡しを行った。

#### < R7取組案 >

- 受入れ人数の拡大を図り、一層の市町DX推進リーダーの育成を行う。